



妖精絵本展

民間伝承から姿を与えられるまで

1999年6月25日(金)~10月11日(月)

6月29日(火)・10月5日(火)のみ休館

天野喜孝「ティターニア」
© Yoshitaka Amano



特集

- ◆原画でつづる
天野喜孝の妖精世界
- ◆日本の絵本に住む妖精

EHON IN THE FOREST

軽井沢絵本の森美術館
KARUIZAWA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

協力：井村君江(明星大学教授・妖精美術館館長)

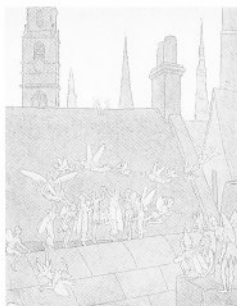
後援：長野県、軽井沢町教育委員会、(社)日本国際児童図書評議会、
絵本学会、フェアリー協会、軽井沢美術館協議会、
信濃毎日新聞社、NHK長野放送局、信越放送、長野放送、
テレビ信州、長野朝日放送 (敬称略)

妖精絵本展

はるかな昔、日本に言霊や木霊が潜んでいたように、アイルランドやブリテン島にも妖精が住んでいました。彼らは人々によって語られ、恐れられ、喜ばれ、それゆえ人間と共に生きていたのです。しかしキリスト教が入ると彼らは「異教の神々」とみなされ、中世になるまで迫害されてしまいます。こうして長い間、不吉なものとして忌み嫌われていた彼らが再び世に戻ってきたのは、シェイクスピアの戯曲によってでした。「夏の夜の夢」「テンペスト」などの舞台に人間らしい性質を備え、どこかしら憎めない妖精たちが現れ、以前までの醜く恐ろしい妖精の印象は一蹴されてしまったのです。彼らは庶民たちに受け入れられ、詩人や画家の手によって作品に取り込まれるようになり、次第にその姿かたちも定められ



リチャード・ドイル「ゴブリンとリス」
©1880 Richard Doyle



レスリー・ブルック「オレンジとレモン」
©1913 L. Leslie Brooke



マイケル・ヘイク「ピーター・パン」
©1987 Michael Hague



エドモンド・デュラック
「エドモンド・デュラックのフェアリー・ブック」
(1916年初版本)

てきました。そして19世紀のヴィクトリア朝時代には、「妖精画家」と呼ばれる画家やイラストレーターたちが競って妖精の姿を描き、まさにこの不可思議な生き物の主題は一躍有名になったのです。

今展では、画家が妖精に与えた姿をご覧いただきます。19世紀の妖精画家、リチャード・ドイル、チャールズ・アルタモント・ドイル兄弟の原画作品をはじめ、ウォルター・クレーンやシシリー・メアリー・パーカー、アーサー・ラッカムなどの美しい絵本と原画およそ130点を公開します。また、「特集」といたしまして天野喜孝氏の原画展、そして日本における妖精的存在を古書や絵本を通じてご紹介します。人々の語る言葉や生活の中に存在した妖精たちは、いったいどのような姿でよみがえったのでしょうか。

「目に見えない存在」に視線を注ぐことは心を研ぎ澄ませること、「目に見えない存在」を信じることは心を豊かにすることではないでしょうか。都会の喧噪の中ふと立ち止まり、妖精を心感じていただけることを祈っています。

特集

◆原画でつづる天野喜孝の妖精世界

シェイクスピアの「夏の夜の夢」をモチーフとした天野喜孝氏の妖精画7点を展示いたします。特に縦63cm、横182cmの大作である「夏の夜の夢」では、幻想的な妖精世界を目の当たりにすることができます。

天野喜孝プロフィール

1952年生まれ。静岡県出身。アニメーションのキャラクターデザイナーを経て、装丁画、「ファイナルファンタジー」シリーズなどのゲームデザイン、舞台美術、妖精美術館のステンドグラス制作等、ジャンルを超えた幅広い創作活動を行う。'97年、N.Yで初の海外個展「THINK LIKE AMANO」を開催。'98年、映像とライブ演奏された音楽との融合により新しい芸術をめざした、「フィルムハーモニック」で、アラビアンナイトをモチーフとしたオリジナル作品が「1001 Nights」として映像化され、コンセプトデザイン・制作監修を務める。同年4月のロサンゼルス・フィルハーモニックの定期演奏会において公開され、作品のユニークさと質の高さはハリウッドでも絶賛された。

◆日本の絵本に住む妖精

西欧で生まれた妖精ですが、日本においては「妖精」という語が一般的に用いられるようになったのは大正時代になってからです。それまでは「妖女」ですとか「フェアリー」などと訳されていました。では日本に妖精はいなかったのかというとそれもどうやら違うようです。アイヌのコロボックルや沖縄のキジムナーなどは日本の妖精と言えるのではないのでしょうか。雑誌「赤い鳥」(大正10年版合本と昭和2年版合本)や雑誌「童話」(大正11年復刻版)、その他国内外の様々な絵本を通じて日本の妖精的存在を考えてみたいと思います。

EVENT INFORMATION

- A** フラワーフェアリーのいる情景をつくる会 (参加費/美費200円)
7月31日(土)・8月1日(日) 両日とも14:00~1時間程度
- B** 森のおはなし会 (参加費無料)
8月7日(土) 11:00~、14:00~の2回 各回30分程度
- C** こんな妖精、どんな妖精? (参加費無料)
8月21日(土)・22日(日) 両日とも14:00~1時間程度
- D** 妖精ポエムカードをつくる会 (参加費/美費100円)
8月28日(土)・29日(日) 両日とも14:00~1時間程度

※ACD...20名まで受付。参加ご希望の方は電話にて美術館までお申し込みください。

- 【期 間】 1999年6月25日(金)~10月11日(月)
- 【開館時間】 (6・10月) 9:30~17:00(最終入館16:50)
(7・8・9月) 9:30~17:30(最終入館17:20)
- 【入 館 料】 ●大人800円●中高生500円●小学生400円
※2館共通割引セット券
●大人1,000円●中高生700円●小学生500円
- 【休 館 日】 6月29日(火)・10月5日(火)のみ休館

併設展

世界のイラストレーター展(Ⅱ)

(第1展示館)

アメリカやポーランドなど7ヵ国のイラストレーターたちによる絵本原画、36点を展示いたします。また、「ギフトブック」と呼ばれる20世紀初頭に流行した豪華本を集めました。カイ・ニールセンの「太陽の東、月の西」(1914年初版本)やアーサー・ラッカムの「イソップ寓話集」(1912年版)など色彩豊かな挿絵の本は一つの芸術品と言えます。



ブライアン・ワイルドスミス「くまのトロッコ」
©1973 Brian Wildsmith

エルツおもちゃ博物館(軽井沢)

ERZGEBIRGE TOYS MUSEUM of KARUIZAWA

夏の企画展
エルツ山地、歴史の証人
ベルクマン(坑夫)の世界
併設展:
エルツ地方のおもちゃたち(Ⅱ)
入館料
●大人400円 ●中高生300円
●小学生200円

軽井沢絵本の森美術館

KARUIZAWA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町塩沢182-1 TEL.0267-48-3340
Homepage(URL):http://shinshu.online.co.jp/museum/ehonomori/



●新幹線「軽井沢」駅、しなの鉄道「中軽井沢」駅下車、タクシー約15分
●上信越自動車道軽井沢ICより約15分、小淵ICより約25分